全国から3万人以上が参加して「原子力空母の配備NO！」の声をあげた全国大集会（7月13日横須賀）

ストップ！原子力空母配備

横須賀の「全国大集会」に3万人

「原子力空母の配備を許さない」「米軍基地の再編・強化反対」の声高く、7月13日、真夏の暑さの日曜日、神奈川県横須賀市のヴェルニー公園で、「7·13全国大集会 in 横須賀」がひらかれ、全国から3万人を超える参加者が集まりました。8月から9月にも米軍横須賀基地に配備されようとしている米原子力空母「ジョージ・ワシントン」。まさに、東京湾に原子力発電所が設置されるようなもの。原子力空母の配備は日本をアメリカの世界戦略に一大拠点として組み込み、日本を「戦争する国」にする危険なもの。2008年夏、被爆63年、憲法9条をまもり、平和をもとめる世論を大きく広げましょう。

横須賀での「全国大集会」で元気に参加した大阪の代表団

配備が予定されている空母ジョージ・ワシントン

おおさか自治体の仲間

発行：大阪自治労連（大阪自治体労働組合総連合）　2008年7月15日　No.234

〒530－0041　大阪市北区天神橋1－13－15大阪グリーン
会館4F　☎06－6354－7201　FAX06－6354－7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp

発行人／谷　真琴　　編集人／西岡　健二
平成2年9月12日第3種郵便物認可
毎月15日発行（1部10円）組合員の購読料は組合費に含まれています。

日時だよ！ 全員集合

2008年7月～9月のとりくみ&行事

- **7月17日(木)**　公務労組連・自治労連夏季闘争第2次中央行動（東京）
- **7月18日(金)～21日(月)**　夏の勤労協大学（長野県原村・八ヶ岳高原）
- **7月20日(日)**　河内長野市長選挙告示日
- **7月26日(土)**　憲法市民講座第4講座「平和への努力と日本国憲法」（国労会館）
- **7月26日(土)**　大阪憲法会議・共同センター第21回地域団体代表者会議（国労会館）
- **7月26日(土)～27日(日)**　自治労連現業労働学校（倉敷市）
- **7月27日(日)**　河内長野市長選挙投票日
- **8月1日(金)**　海外代表と語るピースインおおさか2008（大阪グリーン会館2階ホール）
- **8月4日(月)**　2008年原水爆禁止世界大会・広島大会開会総会
- **8月5日(火)**　自治体労働者の平和のつどい（広島市）
- **8月6日(水)**　2008年原水爆禁止世界大会・広島大会閉会総会
- **8月25日(月)～27日(水)**　自治労連第30回定期大会（長崎市）
- **9月6日(土)**　大阪労連第37回定期大会（エルおおさか）
- **9月11日(木)～12日(金)**　大阪自治労連第21回定期大会（シティプラザ大阪）
- **9月20日(土)～21日(日)**　第7回役員セミナー（東大阪市）

BOOK（本の紹介）オン

「橋下知事への対案～笑顔で暮らせる大阪府再建の道」

大阪自治体問題研究所　編
発行所　せせらぎ出版
定価　950円（905円＋税）

橋下改革の「大阪維新プロジェクト案」の審議にかかる大阪府議会での議論のさなか、タイムリーな1冊です。わかりやすい言葉で、ていねいに説明されているので、たいへん読みやすい読み物になっています。全体は4章からなっており、①橋下府政の財政再建、②もうひとつの財政再建の道、③府民生活への影響、④橋下改革の市町村への影響、とタイトルもわかりやすい。「何のために、財政改革をするのか」「改革のイメージに流されず、本質を見抜こう」「大阪府は解体していいのか」これを読めば、橋下改革の府民イジメのいいかげんさがよくわかります。

当方見聞録 とうほうけんぶんろく 13

平和への思いは親の戦争体験から

稲内　一夫さん
（大阪府職労）

6月30日から7月7日まで、8日間にわたって大阪府内を「核兵器廃絶を」「憲法九条を守ろう」と訴えながら多くの府民が歩いた今年の国民平和大行進。その先頭にいつも「府内通し行進者」のタスキをかけた稲内一夫さんの姿がありました。

稲内さんは大阪府庁の職員で、府営住宅の管理などの部署にいます。組合活動では土木現場支部の組合員。来年の3月末に定年を迎えます。定年を前にして、「今年の平和行進では府内を歩き通したい」という思いを強くもっていました。この思いを夏季休暇を活用して実現させました。

子どもの頃に和歌山市に住んでいた稲内さん。母親から戦争の悲惨な体験をよく聞かされていました。「終戦の年、1945年3月15日の大阪大空襲のあと、和歌山にも空襲があると聞かされて、母親は毎日が生きた心地がなかったという話をよくしていました。親の姉妹が空襲から逃げるときに、両手にマクラと子どもを抱えて逃げ回っていましたが、ふと手の中を見ると、子どもを抱えていたと思っていたのが抱えていたのはマクラだけで、泣きつぶれた、という話も聞きました。こんな戦争は二度と起こってほしくないと、いつも思っていました」と語る稲内一夫さんです。

連日猛暑の続いた大阪で、通し行進を続けた稲内さん

8日間歩き通した稲内一夫さんの顔は真っ黒に日焼けしています。「ツメははがれて痛いですが、歩き通せてよかったと思っています」と稲内一夫さんはニッコリと笑いました。